

2005～2006年度日本広報学会研究会・中間報告書

「コーポレート・コミュニケーション（C.C.）専門職
育成、研修用カリキュラム開発」研究会

2006年 6月

日本広報学会

Japan Society for Corporate Communication Studies

目 次

はじめに	1
研究会開催記録・研究会メンバー	2
研究会の目的・実施計画	3
関西部会「05年 / 06年関西アクションプラン」	4
実施計画：	
☆第一段階「C.C. 専門職」用カリキュラム研究と素材の収集	6
* 「米国のコーポレートコミュニケーション関連大学・大学院をWEB検索」 三島 ちせ.....	7
* 「米国の2つの大学院における広報教育カリキュラムとその考察」 北村 秀美	10
* 「海外広報研究の指針となる40冊の基本文献研究を始めるにあたって」 菅原 正博	19
* 「C.C. 専門職教育カリキュラム研究」 菅原 正博	26
* 「戦後広報研究の流れ」 小林 貞夫	57
☆第二段階：収集したものを昨年度「C.C.O. 研究会」でまとめた広報セッションの 段階やカリキュラム案にあわせて構成し、全体の構想も考える	65
☆第三段階：第二段階での構想案を関西の法人会員社と検討する	66
☆第四段階：実験講座の開催	67
* 2005年度「梅田大学院コンソーシアム」で「C.C.」科目初めて講座	68
* 2006年度「梅田大学院コンソーシアム」で2年目も実施	69
* 2006年度「キャンパスプラザ京都」で「C.C.」科目初めて講座	71
☆第五段階：専門職大学院での講座開催	73
* 「C.C.」科目だけでは、 宝塚造形芸術大学専門職大学院で2005年度後期からスタート // で2006年度は前期で実施	
資料：日本製薬協会で実施しましたアンケートの報告	74
あとがき	81

<はじめに>

日本広報学会関西部会が2004年6月に設立・承認され、前回の「高度専門職業人としてのコーポレート・コミュニケーション本部長の役割—エグゼクティブ・アクション論的視点からの考察—(略称「チーフ・コミュニケーション・オフィサー (以下 C.C.O.) 研究会」を引き継ぎ、関西部会としては2つ目の取り組みである「コーポレート・コミュニケーション(以下 C.C.) 専門職育成、研修用カリキュラム開発」研究会を2005年4月からスタートしました。

この研究会は、C.C.O.研究会で、企業などの「C.C.を行うのが、C.C.O.である」ということを展開したのをうけ、これに続けて、C.C.を企業や行政、大学で推進する人々を育成、研修するためのカリキュラムを開発する必要があると考え、すでにアメリカやヨーロッパでは10数年前から開設されている「コミュニケーション・スクール」を日本で開設することを大きな目標にして、5段階での取り組みを計画しました。

関西部会のメンバーを中心に、学界、産業界(企業の広報責任者やコミュニケーション関連会社の方々)、専門職大学院生等産学連携型で約30名が結集しました。各々役割分担をし、初年度は主に、「カリキュラムの研究と素材の収集」に取り組み、海外文献や海外のコミュニケーション・スクール関連の情報・資料収集では、海外取材も試みました。あわせて、「C.C.基礎講座」と題して、大阪・梅田で開催している専門職大学院連合体である「梅田大学院コンソーシアム」での講座開催や今年からは、京都産業大学のご協力をえて、京都駅前「キャンパスプラザ京都」での講座開催も決まりました。まだまだ、研究途中ではありますが、日進月歩の時代でもありますので、この一年間での取り組みを中間報告の形でご紹介し、関係者の更なる行動に、少しでも刺激に参考になれば幸いです。

2006年6月1日

「コーポレート・コミュニケーション(C.C.)専門職

育成、研修用カリキュラム開発」研究会 主査 石橋 陽

○研究会開催記録

- * 2005年 6月 9日 (木) 18:30~20:00 (於:宝塚造形芸術大学大学院サテライト)
- * 7月 21日 (木) 18:30~20:00 (")
- * 8月 26日 (金) 18:30~20:00 (")
- * 9月 30日 (金) 18:30~20:00 (")
- * 11月 4日 (金) 18:30~20:00 (")
- * 12月 15日 (木) 18:30~20:00 (")
- * 2006年 1月 20日 (金) 18:30~20:00 (")
- * 3月 3日 (金) 18:30~20:00 (")

毎回、研究会終了後、懇親会を開催

○研究会メンバー

主査・石橋 陽 (株)日経リサーチ大阪支社長 事務局・菅原 正博 宝塚造形芸術大学大学院教授
(五十音順)

市川 貢 京都産業大学経営学部教授	稲端 良次 三菱ウェルファーマ(株)広報・IR 部長
伊吹 勇亮 長岡大学産業経営学部専任講師	生越 多恵子 オムロン(株)広報部長
北村 秀美 帝人(株)広報・IR 室海外広報担当	栗原 宣彦 流通科学大学教授
小林 貞夫 愛知学院大学大学院教授	陶山 計介 関西大学商学部教授
関 喜文 シャープ(株)広報部参事	妹尾 俊之 (株)大広ナレッジ 開発局部長
武本 勉 (株)ミツカン 執行役員マーケティング 本部長	樽谷 裕 (株)アドライト 代表取締役
中沢 祐子 色彩士検定委員会専門委員	西川 将史 宝塚造形芸術大学専門職大学院
野口 淳 「食」総合コンサルタント	野村 律子 アポットジヤパン(株)広報部マネージャー
パン 山海 宝塚造形芸術大学助教授	挽地 正雄 (株)DNA 会長
藤井 一夫 (株)フォクス・インターテック 代表取締役	堀川 靖晃 元宝塚造形芸術大学大学院教授
松井 郁子 三菱ウェルファーマ(株)広報・IR 部課長	三島 ちせ ティセアート 代表
守屋 和明 (株)日経アドエージェンシー 常務取締役	山崎 一 (株)エヌ・ワイ・ケイ 代表取締役
綿島 武士 宝塚造形芸術大学専門職大学院	

*本編での記述文では、所属のみにしています。

○研究目的

大学の「専門職大学院」にコミュニケーション系 MBA コースを設立していくための運動で、「コーポレート・コミュニケーション (C.C.) 専門職」用カリキュラムを組み立てる。
組み立てたカリキュラムを広報学会法人会員社と検討会等を催し、実務的な有効性も確保し、出口戦略を展開する。

○実施計画

☆第一段階：「C.C.専門職」用カリキュラム研究と素材の収集

＊菅原氏 「C.C.専門職」用カリキュラム(内外を問わず)や C.C.の「海外もの」「国内もの」の文献収集、翻訳作業等に取り組む。

→もうすでに、かなりの材料が集まっている

→C.C.や C.C.関連図書についてもかなりなものを収集中で、「C.C.」レベルに応じた文献等の明示も成果としてあがりそう

＊北村氏 10年前頃に、アメリカ「ボストン大学」でコミュニケーション系 MBA を取得したのがご当人。当時からのカリキュラムの推移やアメリカ等海外でのコミュニケーション MBA の進捗状況の把握、文献研究・翻訳等に活躍してもらおう。

☆第二段階：収集したものを昨年度「C.C.O.研究会」でまとめた広報セクションの段階やカリキュラム案にあわせて構成し、全体の構想も考える

→研究会メンバーで検討

☆第三段階：第二段階での構想案を関西の法人会員社と検討する（ワークショップ形式のシンポジウムでもよい）

☆第四段階：実験講座の開催

梅田大学院コンソーシアムの「専門セミナー」で実験講座開催:5回ぐらいで半期に1度実施

→05.5.13～7.13 「C.C.基礎講座」宝塚造形芸術大学菅原教授担当で開催

06.6.6～7.4 2年目「C.C.基礎講座」を昨年同様に開催(予定)

06.6.2～7.28 京都での「C.C.基礎講座」を広報学会関西西部会主催・京都産業大学後援で初めて開催(予定)

☆第五段階：専門職大学院で講座開催

最終的には、関西で2～3校ぐらい、名古屋で1～2校、東京で2～3校ぐらいの「コミュニケーション・スクール」の設立をめざす

→05.10～06.3 宝塚造形芸術大学専門職大学院で「C.C.」科目開講

→06.4～06.8 2年目も同様に「C.C.」科目開講